新聞定価 朝夕刊月ぎめ 本体価格 3,738円(税込み 4,037円)、1部売り(税込み)朝刊 150円、夕刊 50円 第3種郵便物認可

監視強化に警戒

「市民が相互不信に」

犯罪を計画段階で取り締まる「共謀罪」法案が21日、国会に提出された。内心の自由を侵しかねないとの批判は根強く、今後も激しい議論が予想される。警察に監視されてきた市民運動家や労働組合関係者は警戒を強め、抗議の声をあげた。

「共謀罪」

閣議決定に抗議

閣議決定を受けて学者やジャーナリスト、法律家らが21日、参院議員会館（東京都）で抗議の集会を開いた。適用対象のあいまいさを危ぶむ声が相次いだ。

「週刊金曜日」発行人の北村肇さんは「事実と真実は市民の武器だ。共謀罪は報道をつぶすための最大の武器になる」と警鐘を鳴らした。足立昌勝・関東学院大名誉教授(刑法)は、法案中の「テロリズム集団」に定義がない点などを指摘し、「内容的にこんなに未熟な法律をよく閣議決定できたものだ」と批判した。

藤田進・東京外大名誉教授（アラブ現代史）は、政府がテロ対策を強調している点について「イスラムとテロリズムを結びつけるアメリカの立場を無条件に追認していて危険だ」と話した。（後藤遼太）

講演する船田伸子さん＝岐阜県大垣市

知らぬ間に病歴漏出

岐阜県大垣市の船田伸子さん(60)は、自分が知らないうちに警察の情報収集の対象になっていた経験がある。「このうえ共謀罪ができたらどれだけ怖いか、想像してください」――。21日夜、地元の大学であった「共謀罪」を考える集会で、自身の体験と監視への恐怖を語った。

病歴情報まで外部に漏らされていると知ったのは2014年7月。市内の風力発電施設建設をめぐり、中部電力の子会社が岐阜県警大垣署との情報交換の議事録を内部文書にしていた。

署は施設の予定地で自然破壊や健康への影響を心配する住民の勉強会が始まったことを問題視し、企画した住職や農家の情報を同社に提供。「つながるとやっかい」などとして、勉強会とは無関係の船田さんや市民活動家の実名を伝えた。「病気で、すぐ次の行動に移りにくい」と船田さんの健康状態にまで触れていた。

船田さんは護憲や反原発の運動にかかわっていたが、13年ごろに体調を崩し、20年以上勤めた法律事務所も休職。風力発電の問題はほとんど知らなかったのに、警察が自分の名前を挙げていたことに驚いた。

警察庁警備局長は15年6月、国会でこの問題を問われ、「通常行っている警察業務の一環」と答弁。県警も同社も謝罪していない。

政府は今回の法案について、市民団体や労働組合は対象外としつつ、犯罪を目的とする「組織的犯罪集団」に一変した場合は対象になると説明する。「一変したかを、だれが決めるのでしょうか」。船田さんには疑問だ。

病気については限られた人にしか伝えていなかった。誰が警察に漏らしたのか、いつも見張られていたのか――。議事録が明るみに出て、疑心暗鬼に陥った。「市民がお互いを信じられなくなる」。船田さんはそれが怖い。

（編集委員・伊藤智章）

「無関係な人にも広がる」

カメラ 警察が無断設置

大分県別府市にある連合大分の支部などが入る建物。矢須田士・事務局長が敷地内に隠されていたカメラ2台に気づいたのは昨年6月24日。参院選公示の2日後だった。

昨年6月、駐車場を映すように木に設置されていたカメラ＝大分県別府市、関係者提供

映像を再生すると、出入りする車のナンバーや、乗り降りする自身の顔が鮮明に確認できた。選挙と無関係の市民の姿も。矢須田さんは「誰が盗撮しているんだ」と不審に思い、その日のうちに別府署に相談した。

2日後、事務所に来た署幹部2人が「カメラは署が置いた」と謝罪した。矢須田さんは、組合員の選挙活動が萎縮しかねないと、公表は先送りした。

監視の狙いは、選挙違反の摘発だった。今回の法案では、「組織的犯罪集団」とは関わりが薄いとして、公職選挙法は対象から外れた。しかし、矢須田さんは「選挙違反の捜査なのに、選挙に関係ない人も監視していた。『共謀罪』ができれば、無関係な人に対する監視はさらに広がるのではないか」と危惧する。

県警は参院選後の昨年8月、労組の敷地に無断で入ったとして、警視の幹部を含む署員4人を建造物侵入容疑で書類送検した。「建造物侵入という違法行為をしていた警察が、労組や市民団体などが犯罪集団に一変したかどうかを判断するのか」と矢須田さんは疑問を感じている。（女屋泰之）

「話し合いで犯罪の可能性」

沖縄抗議活動

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設工事が進む名護市辺野古。米軍キャンプ・シュワブのゲート前や埋め立て予定海域では、工事に反対する市民らの抗議活動が続く。その様子を、警察官や海上保安官、米軍の警備員らが常にビデオで撮影している。

抗議活動に加わる沖縄平和市民連絡会の事務局長、城間勝さん(71)は「共謀罪」への危惧を口にした。日常的に記録されている映像も「恣意的に利用され、ちょっとした話し合いですら『犯罪』とされる可能性がある」と考えるからだ。

沖縄防衛局が設置した有刺鉄線1本を切った器物損壊容疑などで反対派のリーダーが逮捕され、約5カ月間拘束された。「（警察は）今でも一人ひとりを特定するように撮影し、参加者に恐怖心を与えている。（法案が成立すれば）もっと弾圧は激しくなるだろう」（吉田拓史）

CIC 太陽光発電メーカー
長州産業
山口県山陽小野田市 http://www.choshu.co.jp

ネット
厳選ひば 『花粉人』 『無垢』
晴れ着の
丸昌
0120-256-074